

- 1. SMILE PARKたけはら2022(概要)
- 2. SMILE PARK たけはら2022のねらい
- 3. 企画内容
- 4. 当日の様子
- 5. まとめ

■SMILE PARKとは?

2020年度、2021年度に開催したPark(ing)Dayの取り組みでは、歩道や停車帯に子どもが遊べる滞留空間を配置すると多くの人が集まり、**訪れた大人や子ども達に笑顔が溢れ**、また、地域の高齢者にも笑顔が溢れました。

Park(ing)Dayでの駅前エリアは、まさに<u>『公園』</u>のように楽しい空間であり、目指すべき将来の姿であると感じたため、<u>『竹原駅前Smile Parkはじめました!』</u>をコンセプトに、竹原駅前エリアが居心地が良く、歩きたくなる<u>『ウォーカブル</u>なまちづくり』に取り組んでいます。







将来イメージ

■ Park(ing) Dayとは

2005年に米国・サンフランシスコで始まった、路上パーキングスペースを人のための空間に変える取組みです。毎年9月第3金曜日に実施され、世界中のムーブメントになっています。これまで、ソトノバでは2017年に埼玉県さいたま市大宮、2018年に静岡県沼津市、2019年に東京都渋谷区宮益坂で実践しています。



Park(ing)Day2019渋谷宮益坂



Park(ing)Day竹原2020



Park(ing)Day竹原2021

■ Park(ing) Dayの竹原市版

竹原市では、車道や歩道のみならず、沿道の空き地なども公共空間と一体的に活用することによって、人が集まるきっかけ作り、居心地の良い空間を創出しています。2020年度・2021年度開催



■実施体制

道路管理者 交通管理者

許認可

山口大学 (岡松・宋アドバイザー)

助言・調査協力等

社会実験の実施主体(竹原市)

構成メンバー

竹原市・沿道店舗事業者・NTT-F・復建調査設計(株) 山口大学学生・まちづくり会社・地元自治会 (構想・企画・準備・調査)

企画協力

教育の場として活用

応援・資金支援

商店街組合

民間事業者

竹原中学校3年生

UR

什器リース

2. SMILE PARK たけはら2022のねらい

2. SMILE PARK たけはら2022のねらい

■竹原駅前エリアの今後のあるべき姿

竹原駅前・本川通り商店街という特性を活かし、PDをきっかけに来訪者にとって居心地が良く、歩きたくなる空間を創出する

『ウォーカブルなまちづくり』を進めていくことが重要

→ 『竹原駅前エリアウォーカブルビジョン』

■ビジョンの基本コンセプト



竹原駅前Smile Park はじめました!

■取り組むべき10の戦略

戦略 1. 歩きたくなる魅力的な景観

戦略 2.滞在したくなる空間の演出

戦略 3. 訪れた人々が楽しめる体験

戦略 4. 訪れた人々の新たな交流

戦略 5. ビジネスの場づくりと支援

戦略 6. 空き家・空き店舗・空き地の 有効活用 戦略 7. 訪れる人々が利用しやすい 交通環境

戦略 8. 訪れる人々をもてなすやさし い情報提供

戦略 9. パブリックマインドを有した 人材の育成

戦略10. 持続的なまちづくり活動

■将来イメージ



2. SMILE PARK たけはら2022のねらい(実施場所)



2. SMILE PARK たけはら2022のねらい(ターゲット)

■来訪者側のターゲット

- ●竹原駅前エリア徒歩圏域内に居住する子育て世帯(親+子ども(幼児・小学生低学年)
 - ☞小さな子ども達が楽しそうに遊ぶ風景は、近隣に居住する高齢者も笑顔にすることができ、結果的に多世代の市民が笑顔溢れる風景へつなげる。 ➡メインターゲット
- ●竹原駅前エリア徒歩圏域内に居住する<u>小学生高学年や中学生</u>
 - ☞過去の取組において小学生高学年や中学生が長時間滞留につながらなかった。成長期段階におけるまちへの愛着を生み出すことにつなげる。 ➡サブターゲット
- ●道の駅たけはらを訪れる観光客
 - ☞ 道の駅たけはらには年間を通じて多くの観光客が来訪していることから、竹原駅前エリアに誘導することにより認知度向上につなげる。 ➡サブターゲット

■参画側のターゲット

- ●本川通り商店沿道の<u>地域住民</u>
- ☞地域住民がSMILE PARKへ参画するきっかけを作ることによって、ウォーカブルなまちづくりの<u>認知</u> 度向上、日常的な参画へつなげる。
- Park(ing)Dayへ参画する<u>市内事業者</u>
 - ☞多様な事業者がSMILE PARKへ参画することにより、来訪者の満足度向上及び日常的なまちづくり 活動へ参加の参画につなげる。
- ●竹原中学校3年生
 - ☞成長期段階から自ら企画・実践できる場を提供することでシビックプライドの醸成につなげる。

2. SMILE PARK たけはら2022のねらい(企画コンセプト)

■質の高い座り場

単に座り場を用意するだけではなく、飲食やアクティビティなどを<u>楽しみながら</u> 滞留できる場所を設え、居心地の良い場を創出します。

■飲食

飲食は**長時間滞留**につながる重要な要素であるとともに、 沿道店舗への経済的な効果を創出します。

■歩きたくなるための演出

連続性のある魅力的なライトアップや**目的地となる場所を設定**することによって、 来訪者が歩きたくなるストリートを創出します。

■体験

地域の特性を活かした<u>非日常的な体験</u>の場を創出することによって、 人が集まるきっかけとなり、<u>多世代間の交流</u>を創出します。

■人材育成

子ども達がPark(ing)Day竹原の取組に参画することにより、郷土愛を育み、 地域貢献の意欲を高めるとともに、将来的に竹原市へUターンする素地を創出します。

2. SMILE PARK たけはら2022のねらい(企画コンセプト)

メインターゲット

子育て世帯(親+子ども(幼児・小学生低学年) サブターゲット 小学生高学年や中学生、観光客

来訪•認知度向上

ウォーカブル 十 勉強会 企画・運営

質の高い座り場

<u>歩きたくなるための演出</u>

体験 飲食 人材育成

協力 地域住民 十 市内事業者 竹原中学校3年生

継続性

日常的・持続的な『ウォーカブルなまちづくり』の実現

- ☞竹原駅前エリアにおける取組みの認知度向上
- ☞竹原駅前エリアに関連する市内事業者の増加
- ☞竹原駅前エリアに居住している地域住民の幅広い理解と協力

3. 企画内容

企画内容(検討スケジュール)

■実施スケジュール

● 商店街、関連事業者、地域住民など企画参加者の声掛け

人集め

● 竹原中学校との学校連携についての調整

4力月前

● 開催日、開催日数、開催時間帯、場所の設定(特に、夜間実施するかどうか)

概要検討

● 竹原中学校3年牛による集中企画研修の実施

3 力月前

企画検討

• 集中企画研修(2日間)により企画コンセプト、什器配置などの企画骨子を検討

● WEB会議等で、必要什器の選定・購入担当者・金額等を協議し調整

1~2力月前

関係機関

● 庁内、地元商店街、地元自治会等へ企画内容を説明し、協力を要請

交通管理者などへ交通規制や来訪者用駐車場などについて協議

0.5~1力月前

● 当日参加できる人員等を踏まえた、調査内容の検討

調査方法

◆ 歩行者通行量、立寄率調査、滞留時間、来訪者アンケートの準備

0.5~1力月前

3. 企画内容(検討スケジュール)

■実施スケジュール

● 概ね1週間前にプレスリリース、広報、SNS等で情報発信(10月5日公表)

広報 ● 想定されるターゲットは特に念入りに!(子ども園、小学校、子育て支援施設)

10日前

◆準備の負担が大きいので、前日から準備作業を実施

進備

● 調査の準備物、印刷物の確認、必要に応じて現地へカラーコーン等の設置

前日

• 各ゾーンでの監視作業、消毒作業、アクティビティ調査の実施

当日

• 参加者もしっかりと場の雰囲気を楽しむ

当日

• 社会実験実施後に、出展者、沿道店舗にアンケートとヒアリングを実施

ヒアリング

● 売り上げの状況、営業上支障が生じたかなど、経済的な影響が出たかなどは重要

後)1力月以内

● 参加者による振り返り、良かった点・改善点・想定外の効果など

報告会

• 調査結果のとりまとめが終わったのち、商店街理事会等への報告会

後)2カ月

3. エリア別 企画内容(中学生)

■竹原中学校3年生によるによる集中企画研修

愛日時

令和4年6月22日(水)9:00~15:30

寧目的

- 駅前エリアの課題解決や新たな取組などについて、自ら企画・実践する場を提供することで、成長段階からシビックプライドを醸成する。
- ・竹原市の現状を知り、課題改善にむけて提案・活動することを通して、「表現力」と「課題対応能力」を高めるとともに、郷土愛を育み、地域貢献の意欲を高める。

☞参加者

· 竹原中学校3年生 約90名

(講師)

・竹原市職員、NTTファシリティーズ、山口大学学生、いいね竹原、復建調査設計 呉工業高等専門学校学生







3. エリア別 企画内容(勉強会メンバー)

■勉強会メンバーによるによる集中企画研修

寧日時

令和4年7月4日(月)13:00~18:30、8月4日(木)11:00~18:00

寧目的

来訪者にとって居心地が良く滞留できる空間を創出するため、企画の全体コンセプト、対象とする場所ごとに具体的な滞留空間について検討する。

昨年度の課題やアクティビティ調査の結果などを踏まえて、それぞれの立場の人が、様々な視点、独自のノウハウを企画に盛り込んでいき、参加者のスキル向上と関係者の交流を図ることを目的とする。

☞参加者

岡松アドバイザー、宋アドバイザー

地元商店街事業者、地域住民、竹原市職員、NTTファシリティーズ、山口大学学生、いいね竹原 復建調査設計、呉工業高等専門学校学生







3. エリア別 企画内容(エリア全体)

■歩きたくなるための演出

暖色系(オレンジ色)のバルーンランタンで、昼は場所のPR・夜はライトアップし、来訪者の居心地の良さの質を向上させる。







3. エリア別 企画内容(エリア全体)

■歩きたくなるための演出

暖色系(オレンジ色)のバルーンランタンと**竹オブジェ**で、暗いストリート全体をオシャレな雰囲気でライトアップや昔ながらの写真を展示し、来訪者が歩きたくなる雰囲気を演出するとともに、地域住民の参画につなげる。







3. エリア別 企画内容(エリア全体)

■歩きたくなるための演出

消しゴムハンコを各店舗に配置したスタンプラリーや景品にデザイン性, ストリートファニチャーの P Rをプリントしたうちわを景品とすることで来訪者がストリート全体の回遊につながり、地域とつながりが生まれる。





スタンプラリー景品(オリジナルうちわ)



3. エリア別 企画内容(エリア①+エリア②(昼))

■『座り場+飲食+体験』による SmileParkの実現

リビングのような居心地の良い座り場 幼児から小学校高学年・中学生 が遊べるアクティビティ空間 飲食などを楽しむ空間 スポーツなどを楽しむ空間

同世代・多世代・親同士など 居心地の良い座り場や飲食をきっかけ として

様々な交流が生まれ、来訪者や地域住 民の笑顔溢れる<u>『Smile Park』</u>を 実現する。



3. エリア別 企画内容(エリア①+エリア②(夜))

■『座り場+飲食+体験』による SmileParkの実現

リビングのような居心地の良い座り場 幼児から小学生高学年・中学生 が遊べるアクティビティ空間 『eスポーツという新たなコンテンツ』 飲食などを楽しむ空間 スポーツなどを楽しむ空間

過去のPark(ing)Dayで取り込むことができなかった、**小学生高学年や中学生が楽しむ**ことができる空間を創出することで、**竹原への愛着を醸成**することにつなげる。



3. エリア別 企画内容 (エリア③+周辺)

■非日常的な体験の場と持続的な活動

旧憩う屋跡地を中心としたエリアに<u>非日常的な体験できる場</u>を設けることに加えて、 物販や縁日的など、出店料など**収益を確保**し、**持続可能なまちづくり活動**へつなげる。

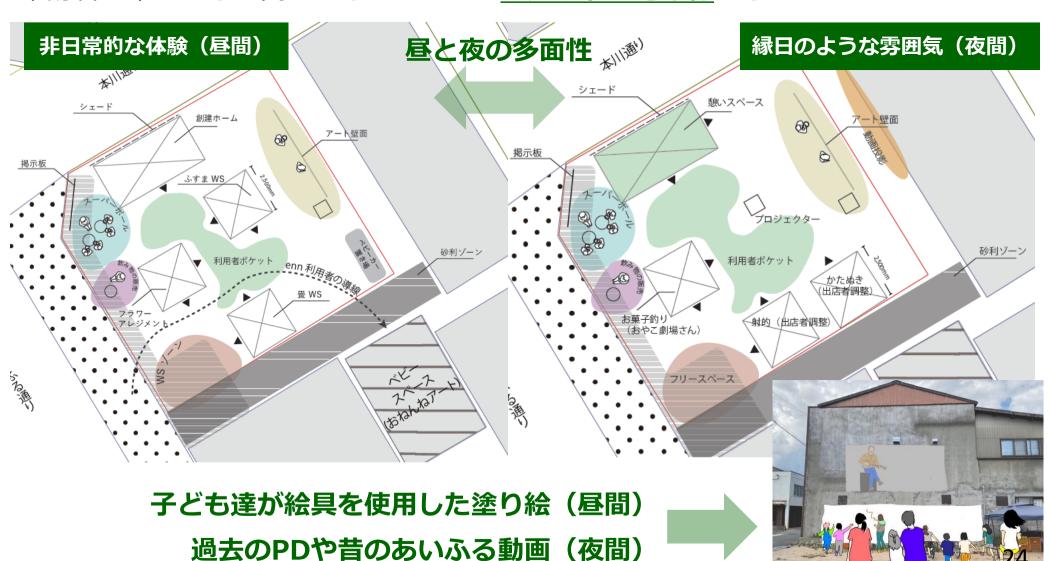


3. エリア別 企画内容 (エリア③+周辺)

■非日常的な体験の場と持続的な活動

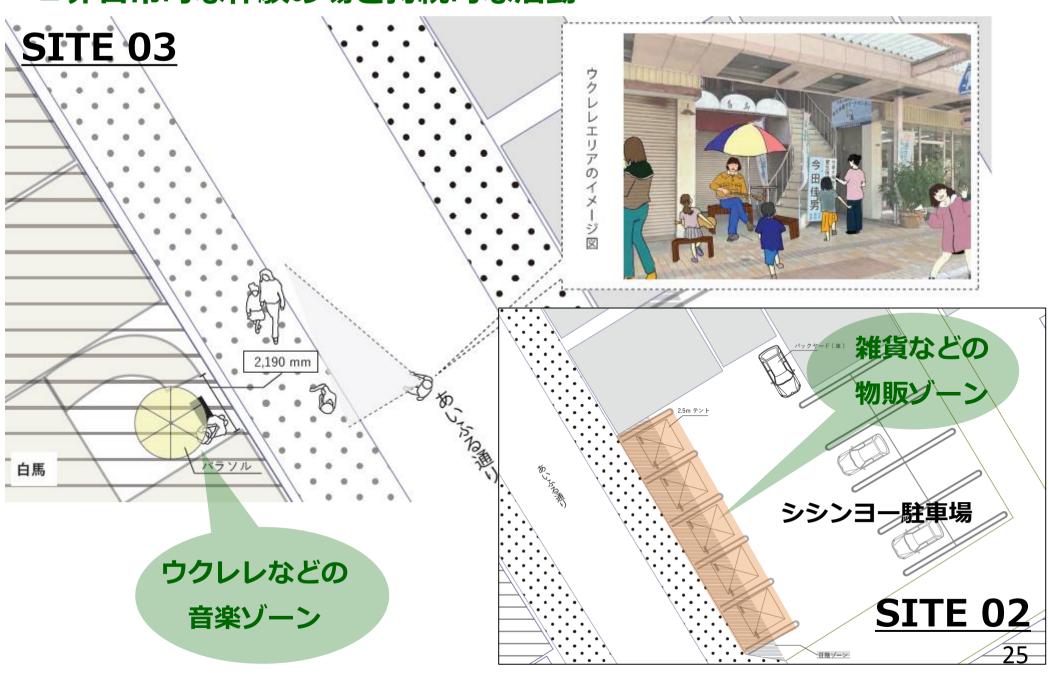
SITE 01

昼間は各事業者のWSや壁面アートで<u>非日常の体験</u>、夜間は縁日的な活動によって 来訪者が楽しめる空間とするとともに、**一定の収益を確保**する。



3. エリア別 企画内容 (エリア③+周辺)

■非日常的な体験の場と持続的な活動



3. エリア別 企画内容 (エリア4)

■SMILE PARK来訪者の導入と全体への回遊



3. エリア別 企画内容 (エリア4)

■『道の駅たけはら』からのアイキャッチと情報発信 スターシェードの規模感を活用したアイキャッチやPDの リアルタイム配信など、**情報発信機能**を有する場所する。 仮囲い H=1800 10.800mm(1800×6枚) サンシェード 65インチ液晶ディスプレイ (ここか、魚市場跡地かの【検討】) スクリーン映像発信 道の駅からくる人の動線に開く 機材置き場など ライブ映像配信:スターシェード内 12,000mm 地図・PD 説明板:道側 当日工事車両により 少し殺風景なので、緑のリボンがあるとオシャレに 使用不可 本川通りからくる人に開く 仮囲い H=1800 9.000mm(1800×5枚)

3. エリア別 企画内容(広報)

■広報方法

- ☞チラシ(周辺地域住民、小学校、中学校、子ども園等)への配布、竹原市・ウォーカブルSNS の活用、マスコミ、地域ケーブルテレビなど
- ☞ウォーカブルまちづくり特設サイトを活用し、SMILF PARK たけはらへの取組経緯や企画内容、

当日の様子について情報発信



ウォーカブルなまちづくり特設サイトの開設 竹原駅前エリアでの取組をわかりやすく情報発信します。

1 概要

竹原駅前エリアではウォーカブルなまちを目指し、ビジョンの策定、SMILEPARK たけはら の開催、日常的な清掃活動など、官民連携で居心地が良く、歩きたくなる空間の創出に取り組 んでいます。

これらの取組について、市民の皆様にわかりやすく情報を発信するとともに、アイデア募集や 事業提案、取組へ参画する市民や事業者を増やしていくために、特設サイトを試験的に開設しま đ,

2 サイトの概要

- (1) サイト開設期間 令和4年10月5日(水)~令和5年3月31日(金)
- (2) サイト運営主体 竹原市、㈱Groove Designs
- (3) サイト内容
 - 『SMILEPARK たけはら 2022』の企画検討プロセス、企画内容、当日のリアルタイム 情報発信、当日のアンケート調査、成果報告など
- ・ 官民連携で取り組んでいる日常的なウォーカブル活動の様子
- その他の竹原駅前エリアでのウォーカブルな活動

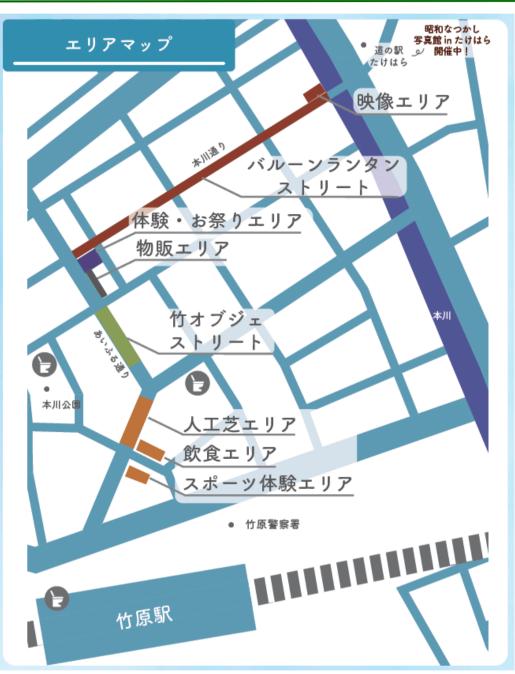


特設サイト活用イメージ

4. 当日の様子

4. 当日の様子(全体配置図)





竹原中学生3年生作業風景

4. 当日の様子









4. 当日の様子 **人工芝エリア**









4. 当日の様子 人工芝エリア









スポーツ体験エリア

4. 当日の様子









4. 当日の様子 飲食エリア









体験・お祭りエリア

4. 当日の様子



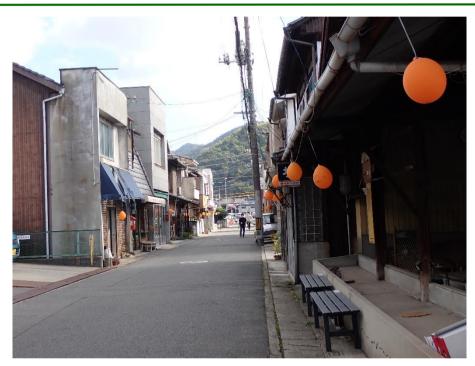






本川通り・動画エリア

4. 当日の様子









雑貨販売エリア 4. 当日の様子









4. 当日の様子

スタンプラリー









4. 当日の様子

SMILE 看板





5. まとめ

5. まとめ

みなさん、大変お疲れ様でした! 来年度もご協力よろしくお願いします。

■実践者の声

取組の成果

- ☞子ども達が元気よく遊ぶ姿を大人たちが眺めている風景が素晴らしかった。
- ☞竹原中学校と連携して企画や準備、運営に取り組むことで、多くの中学生が参加したり、駅前エリアに関心をもってもらうことにつながっていると感じた。
- ☞飲食店やeスポーツ、雑貨店など多くの事業者が参加 し、多様なコンテンツを提供することができた。
- ⇒出店した事業者の売上が好調で、また参加したいとの 声を多く聞いた。
- ☞スタンプラリーによるまちなかの回遊と人工芝や飲食 などの滞留空間の創出など、居心地が良く、歩きた くなるウォーカブルなまちづくりが実現できていた。

改善すべき点

- ☞参加者が非常に多かったのは良かったが、小さな子 ども達の遊び方が危険と感じる場面があった。
- ☞バルーンランタンの企画そのものは良かったが、バ ルーンの明るさや、製作方法を改善する必要がある。
- ☞もっと早くから広報して欲しい、チラシにコンテン ツの内容や実施時間などを充実させてほしい。
- ☞今回のにぎわいを、いかに日常のにぎわいにつなげるかを考えることが重要。







5. まとめ

■ねらい

- ☞角地や三叉路など**目的地となる場所**を設定し、来訪者が**エリア全体を回遊**する。
- ☞中学生などが成長期段階におけるまちへの愛着を生み出すことにつなげる。
- ☞ 飲食を中心に多様な事業者が参画し、来訪者の満足度向上につなげる。

■結 果

- ☞スポーツ体験・人工芝・縁日体験などの各工リアでは**多くの滞留・回遊を創出** できたが、**本川通りや二重焼き跡地**においては、**成果として不十分**であった。
- ☞ 中学生が主体的に企画・準備・運営等に参画することによって、日常的に駅前を訪れる契機となり、駅前エリアに関心を持つことにつながっていた。
- ☞多様な飲食店の出店と座り場の配置によって、来訪者の**飲食に対する満足度** の向上と長時間滞留、経済的効果などにつながった。

■今後の展開

- ☞本川通りと二重焼き跡地の回遊・滞留について検討し、人工芝エリアなどを含めて**質の高さ**を追求し、**エリア全体の魅力を向上**する。
- ☞SMILEPARKの開催については、これまで行政主体で取り組んできたが、**日常 的な滞留空間の創出**に発展させていくため、**民間主体の取組**へ移行を検討する。

43